森内哲也　検索

（三宅町伴堂137-9　TEL/FAX：0745-44-4194）

賀正！今年もよろしくお願いします

【三宅町議会内、いち議員の個人的な活動報告です】

抱負

三宅町は、町長や私を含めた議員たちだけのものではありません。三宅町の住民さん全員のものです。もっと言うと、これから生まれ、ここ三宅で暮らす人たちのものでもあります。

ですので、「三宅町の未来」は、私も含めた住民のみなさんと一緒に創り上げていくものです。だからこそ、みなさんの生の声を聞かせて下さい、一緒に最高の三宅町を創っていきましょう。

しかし、我々の三宅町を含む日本の「未来の姿」はどうなるでしょうか。

人口はこのまま減り続けます。高齢者の実人数はしばらく増えますがピークを迎え、その後、どの世代も人数が減っていきます。三宅町の後期高齢者（75歳以上）のピークはあと、2，3年です。これは、全国平均と比べて５年ほど早く来ます。

「横並び」「前例がないからやらない」という姿勢では、全国より早く来るピークに対しての高齢者対策を、いち早く行うことは難しいでしょう。

私の所には、こんな声が届きます。「車や自転車が運転できなくなったら不安だ。日常の買い物など、どうしたらいいのかわからない」

要するに、やるべき高齢者対策は、地域公共交通の問題です。現在もタクシー券の発行など行っていますが、充分ですか？ 不都合はないですか？

行先で一番多いのは、病院・診療所と買い物が出来る場所です。

幸いなことに、町外になるとしても、近くにあります（山間部の過疎地域では、山を越えて、買い物に行くか移動販売が来ます）

小さい町であるからこそ、近所の人を助けたいと思っている人も一定数います。そんな人たちは、運転してもいいけど、事故などが怖いと言われます。

助けたい人の心配する点を無くして、助けの必要な人とうまく結びつけることが出来る方法はないものでしょうか。この分野でのチャレンジ、外部人材・民間の知恵の利用を望みます。

宇陀市ではバスの自動運転の実証実験があり、田原本町でも実験を考えているといいます。三宅町には、地域公共交通協議会がなく協力し合って、地域交通の問題を考えるという基盤は弱いです。人口が減っていく中で、助け合うことが必要になります。

こんな目の前に迫った問題の解決を視野に入れながら、未来への投資（子ども世代への施策）も進めてゆくことが、わが町・三宅が目指すべきことだと考えています。

森内哲也 活動報告

第26号

2024年1月

もりうちてつや
森内哲也
三宅町議会議員
三宅町伴堂137-9
メール：miyake@best-for-u.com
サイト：http://mt.best-for-u.com

御意見歓迎

詳しくはwebで！

令和5年12月本会議の報告

一般質問に気になるものがありました。議事録参照

●地域振興券（商品券）3000円分が、再び発行されます
（3000円分のうち町内のみ使用可能が1000円分）
使用期間は、３～５月の予定となります。
国からの物価高騰に対する補助金が財源となります。
今回はコロナ対策ではありません。コロナで、町の税収が減るのではないかという危惧がありましたが、現実は逆で、国からの臨時給付が増え税収はアップしています。

●次の選挙（町長選・議員選挙）から、「選挙公報」が発行されます。
選挙期間が５日なので、作成・印刷・配布までの時間が短いことが課題です。
※選挙公報とは、選挙のときに候補者が自分の考えや紹介を伝えるために作られるものです。

●学童保育の業者選定時の不適切な処理が住民訴訟に発展。
原告（住民側）が敗訴しましたが、控訴したために訴訟費用が予算化されています。
※そもそもの問題はコチラ → 説明会動画：https://youtu.be/kw7T37EYW5I
検索ワード【三宅町 住民説明会 学童保育の業者選びについて】
12月議会で、他の議員さんから「その後の業者選定がしっかり行われているのか等」の一般質問も出ています。ぜひ議事録をチェックして下さい。今回は機器の不調で動画がありません。

●人事院勧告にもとづいた給与アップ（一カ月0.96％等）があります。
※人事院勧告とは、人事院の出す勧告です。人事院が公務員に対して働きやすさや効率を向上させるためのアドバイスの一つです。
人事院は国の機関ですので、このタイミングで同じような議案が、全国の自治体で出ています。情報交換をしている議員さん仲間から反対したと聞きました。
そこでの反対の理由は、「一般の住民は物価高騰で苦しんでいる人が多数だ。給与のアップは必要だが、今ではない」とのこと。その議員さんは自民党員で、毎日スーパーに夕方、食材を買いに行かれるようです。そこでの割引品の取りあいが激しい様子を見て、問題意識を持ったとのことでした。
　他の自治体の議員さんの意見を聞いて、住民さんの想いや状況に自分は寄り添えているのかなと考えさせられました。

12月本会議での見どころ（聴きどころは）は、今回は一般質問だったと感じています。
その中で、「聞き捨てならぬ」ことがあったので、中の記事に続きます。

知っとるけ！

令和６年は、能登の地震と飛行機事故で始まり、波乱の幕開けという印象でのスタートとなりました。
わが町に、今回のような地震が来たらどうなる？
考えてしまいました。
大雨による避難所が開設される機会があれば、一度くらいは三宅町での避難所生活を体験しておかないといけないと実感しました。

今回の議会の開催中、他の男性議員さんから、文化ホールの女性トイレが、和式ばかりで使いにくい。様式に変更して欲しいという要望を聞いたが本当か？という、理事者側とのやり取りがありました。
　現在、三宅町議会議員は、男８名女１名という構成で、女性トイレの実情というのは盲点です。平均年齢も高く、小学生ましてや幼児園児の親という議員はいません。
　ぜひ、幼児園・小学校・学童保育の子どもたちのお父さんお母さんがたと意見交換が出来ればと考えています。

編集後記

いろいろなご意見をいただいています。メールでも連絡も可能です。家の前には専用ポストもあります。

miyake@best-for-u.com
https://mt.best-for-u.com/

（表紙からのつづき）

12月議会での一般質問の中に、聞き捨てならぬと感じた発言があったので、皆さんにも考えていただきたいので、ここに記載します。

ちなみに自分・森内の一般質問は何を言いたいのかわからなくなった感じで失敗だったと感じています。他の議員さんの一般質問とその回答からの内容です。

“ 選挙で選ばれた住民さんの代表となる者が、そういう考え方ではダメだ ”と考える内容です。

みなさんも一緒に考えてみて下さい。

「（知りたいと思っても）知らせたりはしませんよ」という回答の内容です。

場面は、事業を行う業者を決めるプロポーザル審査の現状についての質問を、M議員がされている時です。こういう回答がありました。

「すべての選定業務において、単純に公表することは、業者のアイデアが、同業者にパクられたりして、競争において利益を害する」と述べられた後、こう続きます。

「また、審査委員の名前を公表することも、審査委員のそれぞれの発言が明らかになり、そのことから公私にわたる諸活動への影響を危惧する。また、会議における積極的な議論や発言を抑制し、またこれらを避けることになり、町にとって最も有益となる事業者選定がされない恐れもあると考えます。したがって、率直な意見交換や意思決定の中立性が損なわれると判断するので」、公表なんて簡単にしないです。こんな発言内容です。前半は、まぁ良しとして後半。

森内の超訳で簡単にしてみます。

「また、審査委員・選ぶほうの人たちの名前も公表しません。選ぶ人たちの意見が知られてしまうと、『すなおな意見』が言えないからです。すなおな意見が聞けないと、正しく選ぶことができません。それは三宅町にとって良くないです。つまり、『すなおな意見』が出ず、選ぶときの中立性もダメになるから公表しないんです」

この発言内容について、どう思われますか？

私は、「すなおな意見」ってどんなものを想定しているのだろうと感じます。

新しく役場の前にできたMiiMo（みいも）の運営を決定している運営会議での話し合いを、興味のある人にオープンに（公表）して欲しいと、森内が以前に一般質問した時にも、同じような回答でした。

『すなおな意見』　すなわち、「誰かに知られると、言えない意見」、「誰かが知るとなると言えない本音の意見」とは、どのようなものでしょう？？

私が思いつくのは、『差別的な意見』（「男あるいは女には任せられない」、「肌の色が違うからダメだ」とか、「●●党だからダメだ」、「○○派だから良い」・・・）、

あるいは、『完全に個人的な意見』（「あの業者とは長い付き合いなので選びたいねん」、「私はアイツが嫌いやから、絶対に選ばない」・・・）

「私が言ったって絶対に誰にも言わんといてな」と前置きしてからの意見で、多くの人の未来を決定するのは、大丈夫でしょうか？

「みんなに知られるんですか？
そんなんじゃ、意見なんて言えません」
「ええ？　じゃあ　なんで、
審査委員を引き受けたんッスか？」

「自分の事として？」
「住民と一緒に？」
「みなさんの声を聞く？」
暗闇みたいな所で勝手に決めて、
興味を持てるか？
知らんもんについて
声など出せるか？

（左ページからのつづき）

「わが町の未来を決める」ということに対して、

「誰が参加していて、どんなことを言って、どんなふうに決まったのか、ということを、出来るだけ知られないようにしたい」

という発想の考えだとしか思えません。

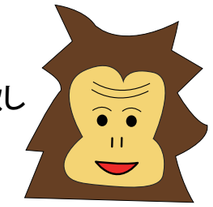
職員サイド（実際に仕事をする人）から見ると、決定事項にしたがって業務をするだけ。

情報を公開して、より多くの人に知られることによって、「あーしろ。こーしろ」「あれはオカシイ。これ間違ってないか」と、いろんな声が届く状況を作ることは、業務が進まないことにもなるので、公開したくないだろう。

事業は最終的に議会の議決を経て決まってくるので、議会のツッコミが入らないようにも公開したくない、という想いが生じることも理解はできます。

しかし、理解はできるが賛成はしない。

住民として、「私たちの町の決め事は、どう決まったか知ることができるようにして欲しい」　それしかない。



↑非公認キャラ「ぜぜヒヒ」

誰のための政治？
どっちを向いてる？

マックス・ウェーバーというエラい人いわく

「職員（官僚）は、住民（有権者）から投票で選ばれたわけでない。必ずしも住民に沿った行動は取らない。しかし、選挙で選ばれた政治家が、住民の利益を代表し、職員を制御することで、住民の望む政治が実現する。だから、政治家と官僚は絶えず権力闘争を繰り広げる宿命にある。」

簡単に言えば、「政治家は、自分の信念で（住民の方を向いた）政治をすると、職員と意見が対立する。そういうものだ」ということ。

職員と対立した時に味方につけるのは住民（有権者）です。

選挙で選ばれた住民の代表であるという立場を見失っては、いないですか？

ご紹介 【『僕のすきな先生』宮崎亮 著】

三宅に大学が！（来ない…）という一件から、松本議員、渡辺議員と一緒に「教育」ということについて考える機会をたくさんもらっています。

この本も紹介してもらいました。

コロナ騒動の時、学校も前代未聞の対応を取ることを余儀なくされ、てんやわんやだったと思います。大阪では、市長からの指示で、オンライン授業を一斉にやることになったようで、その時に「ちょっと、待って」と、提言書を市長あてに提出し声を上げたのが、久保敬（くぼたかし）校長先生（当時）です。そんな先生について書かれた本です。

本の帯にあるように、漫才コンビ・かまいたちの濱家さんの小学校の先生でもあった人です。

この本を読む前に、大阪市長あての提言書を読んだのですが、その印象は「えーなに？いいこと言ってるけど小難しい。こんなこと言う先生って、ガンコジジイちゃうの？」というものです。

が、しかし、この本に出て来る生徒が語る先生像や、本人の語り口からの印象は、まったく正反対のものです。この本から引用しておきます。

「僕らは、大人が言ったことを、そのまま従順に守る子どもたちを育てたいんじゃない。子供たちには、大人たちが作った社会のダメなところを乗り越えて、新たな社会を作っていって欲しい」(P199)

当初の印象とのギャップは何だったのか？ぜひとも会って確かめたい！

ホームページも見てね！ https://mt.best-for-u.com